

狭心症に衝撃波

「高度医療」承認

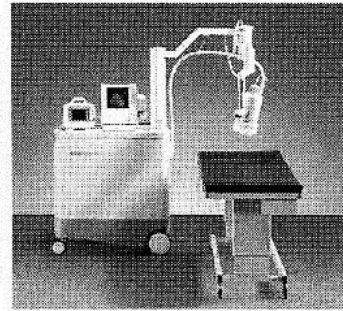
東北大開発の治療法

手術や投薬で治すのが難しい重い狭心症の患者に微弱な衝撃波を当てて血流を改善させるといふ、東北大の新しい治療法が、このほど厚生労働省の「高度医療」に承認された。衝撃波治療の実費以外の各種検査や入院費に保険が適用されるため、患者の費用負担が軽くなる。薬事法に基づく装置の正式承認に向けたデータ収集も加速される。

高度医療に承認されたの

は、東北大医学系研究科の下川宏明教授（循環器病態学）が開発した「低出力体外衝撃波治療法」。腎臓や尿管の結石を砕く衝撃波装置のエネルギーを10分の1に弱め、血行が悪くなった心臓の筋肉（虚血部位）に衝撃波を照射すると、血管が拡大したり新しい血管が作られたりして症状が改善する。

下川教授と東北大病院・循環器内科の伊藤健太准教授らのチームが臨床試験をした結



果、狭心症発作の回数が減り血液を押し出す心臓の力も強くなった。患者に痛みや副作用はなかったという。

これらのデータを踏まえ厚生労働省は今年1日付で、高度医療の「第3項先進医療」に承認した。これによって、正式承認される前の医療機器や薬剤が治療に使えるようになり、科学的データを迅速に集めることが可能になる。今回は、同病院で50人の患者に治療を実施することが認められ

狭心症患者の血流を改善させる衝撃波治療装置＝東北大提供

た。

治療の手順は、心臓専用が開発した装置を患者の胸に当て、超音波装置で血管の位置を確認しながら3時間かけて計200発の衝撃波を当てる。これを1〜2日おきに3回実施、3カ月後に治療効果を評価する。衝撃波照射にかかる費用約27万円は患者の全額負担となるが、保険が適用される治療時の検査や入院費は3割程度の負担になる。今後、治療装置が正式承認されれば、全額負担分にも保険が適用されることになる。

治療チームは「衝撃波治療は全身麻酔や手術がいらず、従来のバイパス手術やカテー

テル（医療用の細い管）治療で治すのが難しい患者に、繰り返して実施することができると話している。治療法を確立させ、患者の生活の質の向上につなげた

2010年7月23日 朝日新聞